

《課題名》

透析患者におけるシャント側の内胸動脈を用いた冠動脈バイパス術

《研究対象者》

2002年1月1日から2019年12月31日までに滋賀医科大学心臓血管外科において単独冠動脈バイパス術を施行され、術前から維持透析をされている方。

研究協力をお願い

滋賀医科大学において上記課題名の研究を行います。この研究は、対象となる方の滋賀医大で既に保有している臨床情報を調査する研究であり、研究目的や研究方法は以下の通りです。情報等の使用について、直接に説明して同意はいただきず、このお知らせをもって公開いたします。対象となる方におかれましては、研究の主旨・方法をご理解いただきますようお願い申し上げます。

この研究への参加（情報提供）を希望されない場合、あるいは、研究に関するご質問は下記の問い合わせ先へご連絡ください。

（１）研究の概要について

研究課題名：透析患者におけるシャント側の内胸動脈を用いた冠動脈バイパス術

研究期間：滋賀医科大学長承認日～2022年12月31日

研究機関・実施責任者：滋賀医科大学心臓血管外科 鈴木友彰

患者さんの情報を扱うもの：鉢呂康平、木下武、高島範之、榎本匡秀、近藤康生、宮下史寛、森本政憲、南館直志、脇坂穂高、浅井徹

情報の管理責任者：鈴木友彰

（２）研究の意義、目的について

《研究の意義、目的》

冠動脈バイパス術を行うにあたって、内胸動脈は長期にわたって開存することが知られていますが、透析患者では術後の透析中にシャント側の内胸動脈の血流が低下する盗血現象が起こる可能性があります。一般的に内胸動脈を使用することは術後の長期成績を改善させるといわれていますが、透析患者における冠動脈バイパス術においてシャント側の内胸動脈を使用することについての臨床的なエビデンスは限られています。今回の研究では透析患者において、シャント側の内胸動脈を用いた群と用いなかった群に分けてそれぞれの短期成績と長期成績を比べます。二群間の成績を比べることで、透析患者における冠動脈バイパス術の術式の妥当性を評価することができます。

（３）研究の方法について

《研究の方法》

当院で管理している電子カルテから患者の術前の年齢・性別・BSA・高血圧の有無・脂質異常症の有無・糖尿病の有無、透析の原疾患、用いたグラフトの種類、術中の手術時間、術後の早期死亡・縦郭炎・脳梗塞・肺炎・電子カルテから判断可能な遠隔死亡を調べ、統計学的処理を行います。

（４）個人情報の取扱いについて

《個人情報の取扱いに関する記載》

研究にあたっては、個人を容易に同定できる情報は削除したり関わりのない記述等に置き換えたりして使用します。また、研究を学会や論文などで発表する時にも、個人を特定できないようにして公表します。

(5) 研究成果の公表について

この研究成果は学会発表および学術雑誌などで公表します。

(6) 研究計画書等の入手又は閲覧

本研究の対象となる方は、希望される場合には、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で本研究に関する研究計画書等の資料を入手・閲覧することができます。

(7) 利用又は提供の停止

御本人のデータを本研究に用いることについて、研究対象者又はその代理人の求めに応じて、研究対象者が識別される情報の利用を停止することができます。停止を求められる場合には2020年12月31日までに随時下記(8)にご連絡ください。

(8) 問い合わせ等の連絡先

滋賀医科大学心臓血管外科 鉢呂康平

住所：520-2192 滋賀県大津市瀬田月輪町

電話番号： 077-548-2244

メールアドレス：hqsurge2@belle.shiga-med.ac.jp